

広瀬川上下流における河川認識アンケート調査

宮城県仙台二華高等学校 高校生 ○広瀬 大河 泉 直輝
 東北大学大学院工学研究科 学生会員 池本 敦哉 柳原 駿太
 東北大学大学院工学研究科 正会員 風間 聡
 宮城県仙台二華高等学校 非会員 深澤 恭子

1. はじめに

一般に、人々が「レジャーへ行く」と言うとき、多くの人が思い浮かべるのは海か山ではないだろうか。そこで「川」という選択肢を思い浮かべる人はそう多くないだろう。山派、海派という表現はよく聞かすが、川派というのは聞いたことがない。つまり残念ながら、レジャースポットや地域の憩いの場として川の人気は海や山に比べて低いといえるだろう。先行研究^{例えば1), 2)}において、「河川の人気を向上させるにはレジャー系の設備、イベントを充実させ、周辺に親水施設を設置させることが効果的である」ということが導かれた。また、アクセスの容易さも重要であると結論付けられていた。川の人気を向上させるには人々が川に対して持っているイメージを把握し、それらのイメージをよりよくするために必要なことを理解することは重要である。そこで本研究は、河川の上流と下流での河川に対するイメージの違いを探るため、それぞれにおいてアンケート調査を実施した。

2. アンケート調査

なお、アンケート調査は令和4年度11月20日に、秋保大滝周辺（**図-1**）、ゆりあげ港朝市（**図-2**）にて実施した。ゆりあげ港朝市では39人、秋保大滝では15人の回答が得られた。アンケート内容は、5段階評価の満足度に加えて、①今日ここへ来られた目的は何ですか、②本日はどなたと来られましたか、③川にはどれくらいの頻度で行きますか、④川は好きですか、⑤あなたの近くにある川の水質は、きれいだと思いますか、⑥あなたの近くにある川の河原や周辺は、きれいだと思いますか、⑦川は行きやすいと思いますか（道路や鉄道が整備されていますか）、⑧川は安全だと思いますか、海と比較した川の長所は何だと思いますか、⑨川は楽しい所だと思いますか、とした。記述式のアンケート項目として、⑩好きな川遊びは何ですか、⑪海と比較した川の



図-1 秋保大滝
 (2022年11月20日 柳原駿太撮影)



図-2 ゆりあげ港朝市
 (2022年11月20日 柳原駿太撮影)

長所は何だと思いますか、⑫山と比較した川の長所は何だと思いますか、⑬ご友人やご家族に、休日当の旅行、観光先として川を勧める場合、最も伝えたい魅力は何ですか、という項目を設定した。④～⑨は、5段階の選択式とした。

3. 仮説

本研究は、以下の仮説を設定した。

- A：川の上流に来ている人の方が川に対して良い印象を持っているのではないかと。
 B：特に、川の上流に来ている人の方が水がきれいだという印象を持っているのではないかと。
 C：川の下流に来ている人の方が交通の便がよいという印象を持っているのではないかと。
 D：満足度が高い人の方が川に対して良い印象を持っているのではないかと。また、満足度が高い人と低い人の差を見ることで、川の人気向上のためにどんな要素が重要であるかが分かるのではないかと。

4. 結果・考察

4.1 基礎情報

回答状況(各項目の最多回答とその割合)を表-1に示す。男女差はほとんどなく、20~30代が多い。次いで60代以上が多くなっていった。若い世代を中心ににぎわっていることが推察される。宮城県からの来訪者が多い。対象地域周辺からの集客が主であると考えられる。

4.2 選択式の項目の回答

図-3, 図-4に, 秋保大滝(上流施設)およびゆりあげ港朝市(下流施設)における選択回答項目の平均値を示す。また, 図-5および図-6に, 満足度が5であった人の各項目の平均値と4以下の人の各項目の平均値を示す。図-3, 図-4を比較すると, 各項目の平均値は, 交通網を除く全ての項目において, 上流施設への来訪者の方が高い結果となった。そのため, 上流施設への来訪者の方が, 比較的川に対してポジティブな印象を持っていると考えられる。一方, 上流施設への来訪者は, 下流施設への来訪者に比べ, 交通網に対して印象が悪いことがわかる。図-5を見ると, 上流域においては, 満足度が4以下の人の平均値の大きい項目が多かった。

しかし, 満足度が5の人は, 「川は楽しいと所だと思うか」, 「川の水がきれいだと思うか」の2つの項目で平均値が高かったため, 川の楽しさ, 水のきれいさは川への印象を上げる要因になっていると考えられる。図-6を見ると, 下流施設において, 満足度が5の人は, 4以下のの人に比べ, すべての要素においてポジティブな印象を持っていると考えられる。また, 「川の周辺がきれいだと思うか」の項目において差が最も大きかった。このことから, 川の周辺のきれいさは川への印象に強く関係しているのではないかと考えられる。

上述の議論より, 3章で設定した仮説と結果はおおむね一致した。一方, 図-5には仮説Dと異なる点が見られた。今後は, 要素間の関係や各要素が満足度に与える影響を検定等により調べる必要がある。

5. おわりに

本研究は, 河川の上流と下流での河川に対するイメージの違いを探るため, 秋保大滝とゆりあげ港朝市を対象にアンケート調査を実施した。その結果, 上流施設への来訪者は, 比較的川に対してポジティブな印象を持っていること, 川の楽しさ, 水のきれいさは川への印象に関係していることが示唆された。今後は記述式の回答データからも人々の河川認識への解釈を深め, 川の人気向上への糸口を探っていききたい。

表-1 アンケートの回答状況

男:女	宮城県内(県外)	20代+30代
55.6% : 44.4%	53.7% (46.3%)	22.2%

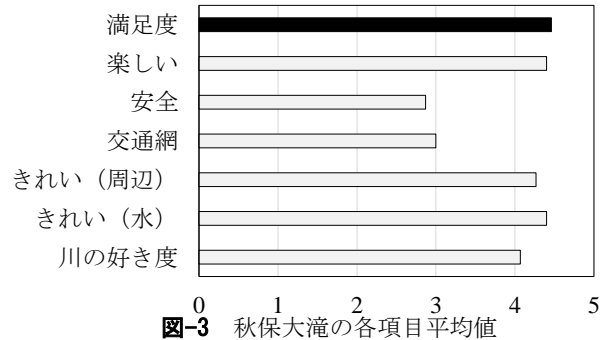


図-3 秋保大滝の各項目平均値

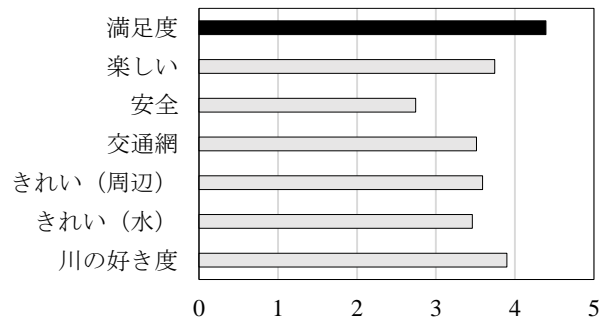


図-4 ゆりあげ港朝市の各項目平均値

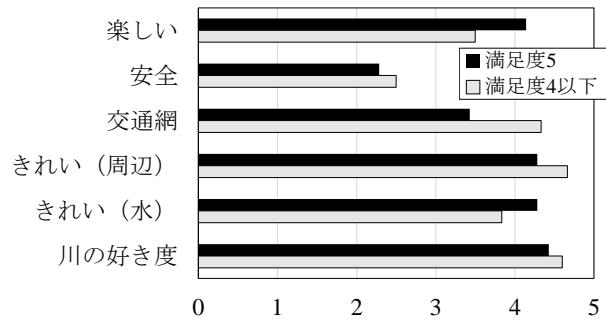


図-5 満足度別の秋保大滝の各項目平均値

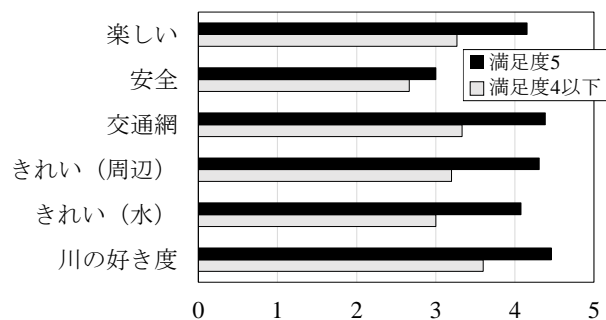


図-6 満足度別のゆりあげ港朝市の各項目平均値

謝辞: 本研究は, 三菱みらい育成財団による助成を受けたものである。ここに記して謝意を表する。

参考文献

- 1) 佐藤ら: 河川の認識調査と親水の活性化への方策の提案, 水文・水資源学会誌, Vol.31, No.5, pp.393398, 2018.
- 2) 川守田ら: ソーシャルメディアを用いた河川関心度評価, 水文・水資源学会誌, Vol.30, No.4, pp.209220, 2017.